

1 現状・課題

- 都内救急搬送人員数(0~14歳(東京消防庁管内))は約51,000人、うち約6,000件が整形外科選定事案(選定科目に「整形外科」が含まれるもの) [東京消防庁データ(平成27年)より]
- 整形外科事案は骨折等が多く、小児の手術等に対応できる医療機関が少なく、選定困難となるケースが多いと想定される

2 分析

救急搬送人員(0~14歳(東京消防庁管内))のうち、選定科目に「整形外科」が含まれるものについて分析 (以下、平成28年は速報値)

(1) 全体の推移

- 総数は6,000件前後で推移
- 選定回数6回以上の件数・割合ともにやや減少傾向

	26年	27年	28年
総数	6,107	5,933	5,956
うち選定回数6回以上	93	87	67
選定回数6回以上/総数	1.52%	1.47%	1.12%

(2) 発生地域

① 医療圏別件数推移

[医療圏別件数推移(直近3か年)]

医療圏	26年			27年			28年		
	総数	選定6回以上	発生率	総数	選定6回以上	発生率	総数	選定6回以上	発生率
区中央部	458	5	1.1%	450	2	0.4%	420	5	1.2%
区南部	501	7	1.4%	475	8	1.7%	466	10	2.1%
区西南部	534	8	1.5%	569	10	1.8%	531	1	0.2%
区西部	446	6	1.3%	444	3	0.7%	453	5	1.1%
区西北部	788	8	1.0%	785	8	1.0%	756	5	0.7%
区東北部	785	29	3.7%	743	28	3.8%	773	18	2.3%
区東部	757	5	0.7%	686	6	0.9%	685	15	2.2%
西多摩	208	0	0.0%	237	1	0.4%	230	1	0.4%
南多摩	616	10	1.6%	585	9	1.5%	627	2	0.3%
北多摩西部	248	4	1.6%	268	3	1.1%	284	0	0.0%
北多摩南部	400	10	2.5%	379	6	1.6%	409	3	0.7%
北多摩北部	363	1	0.3%	312	3	1.0%	322	2	0.6%
他県	3	0	0.0%	0	0	—	0	0	—
合計	6,107	93	1.5%	5,933	87	1.5%	5,956	67	1.1%

② 区市町村別選定回数6回以上推移

- 26・27年は葛飾区・足立区が上位
- 28年は江戸川区が最上位

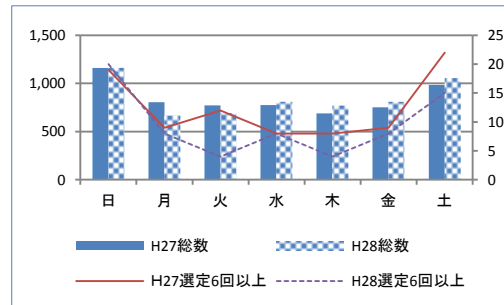
[区市町村別選定回数6回以上・上位5区市(直近3か年)]

順位	区市町村	26年			27年			28年		
		発生区市	件数	発生率	発生区市	件数	発生率	発生区市	件数	発生率
1	葛飾区	14	5.32%	葛飾区	14	5.32%	江戸川区	12	3.12%	
2	足立区	12	2.80%	足立区	12	3.02%	葛飾区	8	3.28%	
3	八王子市	6	2.05%	世田谷区	8	2.21%	足立区	7	1.65%	
4	世田谷区	6	1.79%	町田市	7	3.70%	大田区	5	1.66%	
5	三鷹市	4	5.26%	大田区	7	2.14%	品川区	5	3.49%	

(3) 発生時間帯・曜日

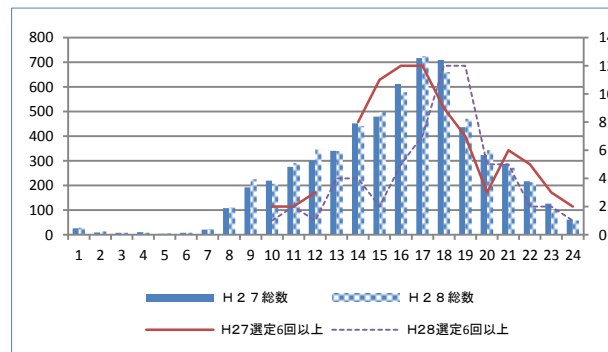
① 曜日別件数推移(平成27年及び平成28年)

- 「総数」・「選定6回以上」ともに土曜日及び日曜日の発生件数が多い



② 時間帯別件数推移(平成27年及び平成28年)

- 「総数」・「選定6回以上」ともに概ね14時から18時までの間で発生件数が多い



2 分析(つづき)

(4) 傷病名

- 全体では「打撲」が最も多く、選定回数6回以上では「骨折」が最も多い

【平成27年：全体】

キーワード	件数	割合
骨折	1,162	19.6%
打撲	2,002	33.7%
外傷	550	9.3%
挫傷	385	6.5%
挫創	487	8.2%
脱臼	146	2.5%
肘内障	194	3.3%
捻挫	272	4.6%
その他	735	12.4%
合計	5,933	100%

【平成27年：選定回数6回以上】

キーワード	件数	割合
骨折	46	52.9%
打撲	16	18.4%
外傷	5	5.7%
挫傷	2	2.3%
挫創	3	3.4%
脱臼	5	5.7%
肘内障	1	1.1%
捻挫	1	1.1%
その他	8	9.2%
合計	87	100%

【平成28年：全体】

キーワード	件数	割合
骨折	1,202	20.2%
打撲	1,936	32.5%
外傷	545	9.2%
挫傷	374	6.3%
挫創	451	7.6%
脱臼	141	2.4%
肘内障	214	3.6%
捻挫	250	4.2%
その他	843	14.2%
合計	5,956	100.0%

【平成28年：選定回数6回以上】

キーワード	件数	割合
骨折	38	56.7%
打撲	12	17.9%
外傷	2	3.0%
挫傷	0	0.0%
挫創	4	6.0%
脱臼	5	7.5%
肘内障	1	1.5%
捻挫	1	1.5%
その他	4	6.0%
合計	67	100.0%

(5) 年齢区分

- 全体では「12~14歳」が最も多く、選定回数6回以上では概ね「6~9歳」が多い

【平成27年：年齢区分別件数】

年齢	0~2	2~5	6~7	8~9	10~11	12~14
全体(総数)	450	1,388	852	883	889	1,471
うち選定回数6回以上	7	14	10	21	12	23

【平成28年：年齢区分別件数】

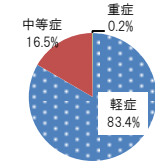
年齢	0~2	2~5	6~7	8~9	10~11	12~14
全体(総数)	485	1,354	820	971	860	1,466
うち選定回数6回以上	5	11	17	15	7	12

(6) 初診時傷病程度

- 全体では「軽症」が最も多い
- 選定回数6回以上では「中等症」が最も多くなるが、「軽症」も5割弱を占める

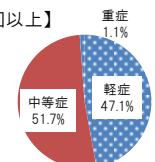
【平成27年：全体】

傷病程度	件数
軽症	4,948
中等症	976
重症	9
合計	5,933



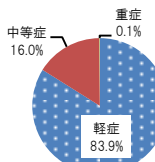
【平成27年：選定回数6回以上】

傷病程度	件数
軽症	41
中等症	45
重症	1
合計	87



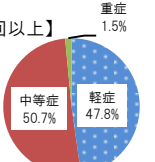
【平成28年：全体】

傷病程度	件数
軽症	4,998
中等症	950
重症	8
合計	5,956



【平成28年：選定回数6回以上】

傷病程度	件数
軽症	32
中等症	34
重症	1
合計	67



3 医療機関へのヒアリング [平成28年10月~12月]

- 搬送困難件数が多い区東北部の小児二次救急医療機関4病院を訪問
- 搬送困難となる原因・その解決策等について御意見を伺った(ヒアリング対象者は主に整形外科医)

対応が難しい外傷については、一旦受け入れたとしても転送できる病院を確保してほしい。
転送先が予め確保されていれば安心して受けることができ、断る事例も減る。

4 今後の方向性

- 初期診療後、対応困難な場合に転送できる医療機関
- 受入れが困難となった場合に受け入れる医療機関

を全般的に確保し、骨折等による小児外傷患者が搬送困難とならない体制整備を検討